

2024年度広島修道大学自己点検・評価報告書

広島修道大学自己点検・評価委員会

1. 全体の評価

広島修道大学（以下、本学）では、第4期中期事業計画（2020年度～2024年度）に沿って各年度の事業計画を策定してきた。本年度はその最終年度であり、事業は具体策の数にして83事業であり、そのうち68事業（82%）について達成完了している。この割合は昨年度（78%）を上回っており、また昨年度には未着手の事業が1件あったが、本年度は皆無であることも好ましいと言える。

具体的な内容としては、教育と学生支援の充実のための事業（教学マネジメント委員会の審議事項の整理、TA・SA制度の運用、データサイエンス科目の実施、リカレント講座の開講、高等教育修学支援新制度対象大学としての認定等）や入試制度の整備のための事業（学校推薦型選抜（公募・併願）の実施等）について、昨年度に決定した計画（plan）を具体的な施策として支障なく実行（do）に移した点が高く評価される。次年度以降、各施策の点検・評価（check）と改善（action）が適切に行われることを望む。

また、本委員会が昨年度に指摘した「第5期中期事業計画」の未着手について、計画が大学評議会において決定されたことは評価される。「2040年の広島修道大学ビジョン」と合わせて、次年度以降の具体的な施策の策定と実行を期待する。

本年度の具体策のうち残りの15事業（18%）についても、完了には至ってはいないものの相応の進捗を見せている。しかしながら、教育の充実に向けた近年の中心的課題である「学修成果の可視化」に関連する、学修ポートフォリオの利用、授業アンケートの回収率、IR推進室の今後の体制・方針について、それぞれ当初の計画を達成できなかったことは重く受け止める必要があろう。また、校舎等建替計画および新規財政計画の策定が完了しなかったことも、それぞれ本学の中・長期的方向性の指針となるものだけに残念である。学内での十分な合意形成を経て、なるべく早く策定することを求める。加えて、学生の学習環境に関わる空間整備計画の立案も未達であり、学生の要望を丁寧に聴取する体制づくりを含めて引き続きの努力を求めたい。

最後に、一部の学部について入学定員の適切な管理ができなかったこと、および大学院の定員未充足については、それぞれに難しい側面があることを承知しつつも、改善事項として指摘せざるをえない。

2. 自己点検・評価項目別評価結果

2-1. 評価結果

点検・評価項目▼	点検・評価結果▼			
	極めて良好であり、適切に取り組んでいる	良好であり、おおむね適切に取り組んでいる	軽度な問題があり、努力が求められる	問題があり、改善が必要である
(1) 理念・目的に関すること		○		
(2) 内部質保証に関すること			○	
(3) 教育研究組織に関すること		○		
(4) 教育課程・学習成果に関すること		○		
(5) 学生の受け入れに関すること				○
(6) 教員・教員組織に関すること		○		
(7) 学生支援に関すること		○		
(8) 教育研究等環境に関すること		○		
(9) 社会連携・社会貢献に関すること		○		
(10) 大学運営・財務に関すること			○	

2-2. 評価理由、改善事項

(1) 理念・目的に関すること

【評価理由】

本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を教育理念・目標として掲げ、これを「広島修道大学学則」に定め大学WEB サイト等にて公表している。学部・学科、研究科・専攻についても、大学の理念・教育目標を踏まえた教育目的を定めている。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①「2040年の広島修道大学ビジョン」に基づく第5期中期事業計画を策定した。
- ②「2040年の広島修道大学ビジョン」を体現したキャッチフレーズ、カラーパターン及びマスコットキャラクターなどのブランドビジュアル・アイデンティティを開発した。

しかしながら、第5期中期事業計画は、第4期中期事業計画の達成状況に関する組織的な点検・評価の結果に基づいて策定されたわけではない点については留意する必要がある。第4期中期事業計画の達成状況についての点検・評価を確実に実施することを次年度の課題として求めたい。

(2) 内部質保証に関すること

【評価理由】

内部質保証の方針について、全学内部質保証推進に関わる方針や手続き、内部質保証の推進に関わる諸組織の権限・役割分担を整備・公表し、適切に内部質保証活動を実施している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①昨年度設置した教学マネジメント委員会において、3つのポリシーや、アセスメントプランに基づくアセスメントチェックなど教学マネジメントに関わる事項の実質的審議を行った。
- ②今年度より委員構成を変更した全学の自己点検・評価委員会において、事業計画達成状況や点検・評価報告書によるPDCAサイクルの点検・評価を実施した。
- ③第4期認証評価を来年度に控え、分野別評価及び総合外部評価を実施し、長所や課題を確認した上で、改善・向上のための取り組みを検討または実施に移した。

しかしながら、次の2点については問題解決に向けた努力を求めたい。

- ①一昨年度より指摘しているIRデータを活用した内部質保証の強化について進展が見られない。IRのあり方と全学的な体制づくりについて早急に整理することを求める。
- ②内部質保証推進に関わる組織について、教学マネジメント委員会を追加した体制図の修正はなされたが、内部質保証推進に責任を負う組織である大学運営会議や自己点検・評価委員会との役割・権限、委員の構成及び審議事項について改めて整理した上で運営することを求める。

(3) 教育研究組織に関すること

【評価理由】

本学の理念・教育目標に沿って構成されている。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①新学部設置に向け、新学部設立準備委員会及び新学部設立準備小委員会において新学部のカリキュラムや教員配置等、適切に検討を進めた。
- ②広島修道大学高等教育機構（仮称）設立準備委員会を設置し、その答申が提出された。
- ③大学院改革のためのワーキンググループを設置し、大学院の中長期的な改革案が取りまとめられ、答申が提出された。

しかしながら、広島修道大学高等教育機構（仮称）の設置や大学院の改革についての本格的な議論を来年度の課題として求めたい。

(4) 教育課程・学習成果に関すること

【評価理由】

本学の理念・教育目標を踏まえた「教育方針」として、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」と「教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めている。また、各学部・学科、各研究科・専攻においても、大学の方針を踏まえた教育方針を定めている。これらの適切性については大学運営会議において点検し、全て大学 WEB サイトや「学修ガイドブック」等で公表・明示している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①2024新カリキュラムが始動し、履修手続き、授業運営及び成績入力・発表が適切に遂行された。
- ②今年度より始まったワールド・ステージ・プログラムにおいて、希望者の登録、奨学金の給付を行い、学生の留学支援や語学力・言語コミュニケーション力向上に貢献した。
- ③学習成果の把握・評価に関して、各学部・研究科において卒業論文・卒業研究・修士論文等のループブックを検証・改善するとともに、コモンループブックの検討も行った。

しかしながら、次の3点についてはさらなる努力を求めたい。

- ①回収率向上をめざし設問数を大幅に削減した授業アンケートについて、目標としていた回収率には至っていない。回収率を上げるための取り組みを引き続き検討されたい。
- ②アセスメントチェックリストに基づく学修成果の可視化については、教学マネジメント委員会においてIR推進室から提供された機関レベルのデータ把握を行い、さらに学部・研究科レベルにおいてアセスメントチェックの検証を開始しているが、評価・分析結果を改善に結びつけるまでには至っていない。
- ③学修ポートフォリオは、新教学システムにより今年度後期の成績発表からテスト稼働を行っているが、今年度中の本格稼働には至っていない。

(5) 学生の受け入れに関すること

【評価理由】

大学及び学部・学科・研究科について、「学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」を定め、大学 WEB サイト等で公表している。また、入学者選抜は定められた方法により、学内会議で適切に実施されている。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①新たに公募併願制を全学部で導入し、適切に実施した。
- ②入試広報については、昨年度を上回るオープンキャンパスの来場者数の獲得や、アクセシビリティの改善とブランドイメージ統一を図った入試情報サイトのリニューアルが完了している。

【改善事項】

学部の入学定員管理について、1学部で入学者目標数未達となり、また2学部で設定上限値を超えるという結果となった。歩留まり予測が年々困難になっていることは理解できるが、入学定員および収容定員の適切な管理は本学の財政基盤の根幹でもあることから、一層の努力を求める。また、研究科については、2025年度の定員変更（届出）を行ったことに伴い、収容定員充足率の改善はみられるものの、未だ低率である。大学院改革ワーキンググループの報告を踏まえ、引き続き中長期の改革案の検討を進められたい。

(6) 教員・教員組織に関すること

【評価理由】

大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を適切に定め明示するとともに、大学設置基準上の必要教員数を配置している。また、各学部・研究科に FD 推進委員会を置き、教員の資質向上等のための研修・研究が適切に行われている。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①基幹教員制度への移行にあたっての方針として、2026年4月を開始とすることなどを定めた。
- ②学部及び大学院の教員数が設置基準数を満たすことについて、大学運営会議で確認した。
- ③各学部で実施しているFD研修について、学内での共有を行うとともに、現状を整理し図式化した。

しかしながら、FD研修についてはSD研修と合わせて体系化に向けて引き続き検討することを求めたい。

(7) 学生支援に関すること

【評価理由】

学生支援の方針に基づき、障がいを持つ学生や特別な配慮を要する学生をはじめ、すべての学生に寄り添いながら、修学や生活に関する支援及びキャリア形成教育（進路選択含む）支援を展開している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①学習支援の一環として新たにTA・SA制度を導入し、授業での活用実績を残した。
- ②これまで実施してきたフォローアップ面談に関して、各種データの検証による点検・評価にもとづき、2025年度生以降については入学後早期の面談へ切り替えることを決定した。
- ③キャリアセンターが実施する各種ガイダンスやセミナーについて、学生にとってわかりやすい年間マップを作成・提示した。
- ④課外活動の活性化を目的として、サークル指導者業務委託制度の2025年度試行的実施に向けた体制整備・契約などの準備を整えた。
- ⑤海外協定校への派遣・受入れの増加に向けて、既存の協定内容の見直しや新たな協定校・プログラムの開拓などに精力的に取り組んだ。この点については、派遣・受け入れの増加という実績が残せるよう、引き続きの努力を求めたい。

(8) 教育研究等環境に関すること

【評価理由】

教育研究等環境の整備方針（研究活動支援並びに環境整備方針）に基づき整備している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

＜施設・設備等＞

- ①新教学システムの構築、高等教育修学支援新制度の新区分に対応した財務システムの改修など適切に整備を行った。
- ②新体育館建設工事について、計画に沿った進捗管理を行い、工事全体の進捗率8割を達成した。
- ③新学部構想を踏まえ校舎等建替計画を見直し、新たな計画を策定した。

＜研究環境＞

- ①研究活動推進の一助として、科研費の執行・管理における経理処理方法のフローチャート作成や、収支簿のWEB化を行なった。
- ②科研費の申請数と採択率の向上を目的に、研究者支援の一環として新たに科研費レビューを導入した。
- ③昨年度に規程制定・改正を行い体制整備した受託研究・寄附研究について、今年度は4件の実績となり、昨年度を上回った。

＜その他＞

- ①職場DXに向けたロードマップに関する具体的な取り組みスケジュールを含んだ提案書が学長へ提出された。この点については、次期中期事業計画での実行に期待したい。
- しかしながら、学内における学生の学習環境に関わる空間整備計画について立案に至らなかったことは残念であり、総合外部評価委員が指摘しているワンストップサービスの提供体制とともに、今後速やかに計画立案することを求めたい。

(9) 社会連携・社会貢献に関すること

【評価理由】

社会貢献・社会連携の方針を大学WEBサイトで公表している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

＜社会貢献＞

- ①本学初となるリカレント講座を開講し25名の受講者を得た。
- ②ひろみらシンクタンクについて積極的に情宣活動を行い、登録教員数・相談件数が増加した。
- ③ひろみら地域協創スタジオの実施が1件あった。

＜社会連携＞

- ①協定先との協働事業として、西日本最大級の防災イベント（たられば防祭）等に教職員・学生を派遣した。
- ②教育ネットワーク中国主催のシャレオコンサートへ学生を派遣した。
- ③株式会社ひろぎんホールディングス・株式会社NTTデータ中国・広島県庁及び地元大学との連携による教育プログラムへ経済科学部が参画した。

(10) 大学運営・財務に関すること

【評価理由】

大学運営・財務に関する方針を明示し、適切に大学運営している。

今年度を実施した具体的事業として評価できる点は次のとおりである。

- ①避難訓練等の実施・検証を踏まえた改善点等を広島修道大学事業継続計画（BCP）へ反映させた。
- ②経常経費について、マイナスシーリングの予算編成方針を策定、学内共有し、予算案を策定した。
- ③ブランドイメージの定着・浸透と本学の魅力発信に向けて、「2040年の広島修道大学ビジョン」を体現したビジュアル・アイデンティティを開発し、広報・広告へ展開した。
- ④大学の公式マーク等について、商標登録の出願を行った。
- ⑤同窓会や後援会と連携し、学生への支援・サービスの展開、保証人や卒業生対象の企画行事などを実施した。

しかしながら、校舎等建替計画および新規財政計画の策定が完了しなかったことは、事業計画の遂行という点では問題である。それぞれ本学の中・長期的方向性の指針となるものだけに、拙速となることなく学内での十分な合意形成を経ることが重要ではあるが、なるべく早く策定することを求める。加えて、広報・広告に関する施策の効果検証と、部局等で独自に実施しているSD研修の全学としての体系化とを来年度の課題として求めたい。

3. 特に優れた取り組み（一定の成果があり、先駆性、独創性、独自性が見られる）

--

4. その他

大学基準協会による第4期認証評価を来年度に受審する準備として、今年度は総合外部評価及び分野別評価を受け、点検・評価報告書を全学・学部・研究科が精力的に作成した。そのこと自体を否定するものではないものの、7年という受審周期を踏まえて、毎年度に着実に準備作業を進めることが必要である。このための体制・制度は、単に準備作業の年度間の平準化を図ることを目的とするものではなく、毎年度の点検・評価を実質化することを目的としたものとすべきであり、内部質保証推進に責任を負う大学運営会議での丁寧な検討を望む。